２　教育目標

（１）　学校の教育目標

望ましい民主的な社会を形成する地域の一員としての自覚を高め、すすんで広く平和的な国際社会に貢献する社会人の育成を目指す。また、人権尊重の精神を基調とし、心身ともに健康でたくましい知性と感性に富み、人間性豊かな児童の育成を目指し、連雀学園の教育目標の下、次の教育目標をおく。

〇思いやりのある子ども　　〇考える子ども　　◎健康な子ども

そのために育む資質能力は

〇相手を思いやったり多様な立場を理解したりして、他者と協働して課題解決する力

〇自ら課題を見出し、最後まで粘り強く取り組む力

〇体力や健康づくりに自ら取り組む力

（２）　学校の教育目標を達成するための基本方針

「三鷹のこれからの教育を考える研究会最終報告」にもあるように、個人や社会のウェルビーイングを「目的地」として、本年度は、「健康な子ども」を重点目標とする。重点目標達成のため、家庭・地域社会との協力、協働の関係の中で、体育や保健の授業改善とともに、健康的な基本的生活習慣を身に付け、外遊びを奨励し、運動の日常化に取り組む。あわせて、自己肯定感、自己有用感を高めることを意識した授業改善・教育活動を行うことで「たくましい六小の子ども」の育成を目指し、特色ある学校づくりを推進する。

ア　時間割編成や学年・学級経営を工夫し、習熟度別少人数指導やティーム・ティーチング、中・高学年を中心に一部教科担任制を組織的に行う。「三鷹市小・中一貫カリキュラム（更新版）」の活用及び評価・改善を図り、１人１台配布された学習用タブレット端末を十分に活用しながら「個別最適な学び」の実現を目指すとともに、多様な他者とのかかわりの中での「協働的な学び」を推進する。また、知的コミュニケーションを生かした授業実践やユニバーサルデザインの授業を行うことで確かな学力の向上を図る。さらに、令和２年度以降実施している三鷹市学力テストを活用して、経年変化を分析しながら、ＧＩＧＡスクール研究開発委員が作成した動画などを活用した一人ひとりの実態に応じた学習を進め、学力の向上を図る。

イ　学園研究のテーマ「知的コミュニケーションを活かした学習指導の工夫」を設定し、これからの社会に求められる資質・能力の育成を意図した教育課程を踏まえた、新しい教育課題の解決を目指すとともに、主体的・対話的で深い学びを展開し、「思考力・判断力・表現力等の育成」を重点とし、「知的コミュニケーション」をキーワードとして、本校は体育・健康教育で研究をすすめ、３年目としてまとめの年とする。学園研究と校内研究を一体化して、各校での実践をそれぞれの学校に定着させるとともに、教科の指導を中心とした校内研修「六小塾」やＯＪＴを組織的・計画的に活用して、日常の教育活動の中で教職員が協働し、相互に研鑽し合い、授業力の向上を図る。

ウ　「体育・健康教育」を中心に研究に取り組み、体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し豊かなスポーツライフを実現するための資質・能力を育成する。さらに、自己肯定感・自己有用感を育む教育活動を展開する。

エ　一昨年度までの全学年のデータや令和２年度５年生、令和３年度以降の「東京都児童・生徒体力・運動能力、生活・運動習慣等調査」の結果をもとに、本校の児童の実態に応じた取り組みを進めるとともに、体力について考え、自分に適した目標をもち、生涯を通して運動に親しみ、積極的に健康の増進と体力の向上を図ろうとする態度を養う。

オ　Hyper-QU テストを活用してよりよい人間関係つくりを進めるとともに、子どものサインを見逃さず、あらゆる偏見や差別、いじめをなくし、自尊感情・自己肯定感を高め、自他ともに認め合う心をはぐくむために、心の教育や人権教育を推進する。

カ　「特別の教科道徳」時間の指導を充実するとともに、全教育活動を通して道徳教育を行う。学園・学校・家庭・地域社会と連携しながら、思いやりの心や規範意識を育て、よりよく生きるための道徳性を養う。

キ　個別指導計画、個別の教育支援計画をもとに、関係諸機関との連携を図りながら、様々な教育的ニーズを要する児童を支援する教育支援（特別支援教育）を推進する。必要な支援を必要な時に受けられるように、教育支援校内委員会を組織的に運営するとともに、保護者との連携について強化を図りながら合理的配慮に基づいた個別指導の充実を図る。また、校内通級教室がより効果的に行われるように、担当教員との連携を図る。

ク　家庭、地域と連携して教育活動の充実を図るとともに、コミュニティ･スクール委員会を中心に保護者、地域に評価を仰ぎ、それを活かして活動の改善を進め、スクール・コミュニティの創造を目指し、令和４度設置した地域学校協働本部(連雀ジョイナス)と連携した活動を進める。地域運営型とした「六小・心のふるさとネットワーク」構想を、より発展したものとするために地域人財の拡大と活用について連絡方法の改善を図り、運営を円滑にする。また、「六小みたか地域未来塾（国語・算数)」を充実し、補習を行い学力の底上げを図る。

ケ　学園の基本方針を踏まえ、全職員の共通認識のもとに当事者意識を強くもって課題解決に当たるようにする。さらに、校務改善のための学校経営支援組織が中心となって分掌組織を見直し、学校運営の一層の効率化を目指す。

コ　安全教育、特に、災害対策、交通安全、不審者対応、熱中症事故や台風被害等の実態を踏まえ「安全教育プログラム」等の資料を活用し、全職員が正しい知識をもち、高い意識で地域や保護者と協働して、安全で安心な学校作りを行う。また、計画的、継続的に指導を徹底することで、児童の安全・安心への意識を高める。

（３）　学園の教育目標を達成するための学校としての重点

ア　指導法を工夫するとともに、小・中学校教員の相互乗り入れ授業や学園での授業研究等による教員の指導力向上を図り、児童の確かな学力の一層の向上を図る。

イ　様々な教育的ニーズを必要とする児童を支援するために作成した個別指導計画を学園で共有し、これをもとにした引継ぎを活かして、９年間を見通した一貫した支援を行うことにより、将来の自立に向けての力を育成する。

ウ　連雀の地域人財を活かした学習教材を通して、キャリア・アントレプレナーシップ教育を実施しカリキュラムマネジメントの視点からの見直しを図り、学園内の交流や９年間の系統的な学習につなげる。また、それらを通じて、他者との適切な人間関係を構築するコミュニケーション能力を培い、主体的・意欲的に取り組みながら、問題解決能力の育成を図る。

エ　学園各校の生活指導部やコミュニティ･スクール委員会と連携して、学園全体として一体感をもって児童の健全育成に取り組む。

オ　小・中一貫コーディネーターが中心となり、コミュニティ・スクール委員会と連携して、あいさつ運動や児童会・生徒会連携、子ども熟議等の活動を計画的・効果的に推進する。

カ 学校３部制の第２部にあたる放課後の教室開放を小学校三校で実施し、子どもたちの放課後の安・全安心な居場所になるだけでなく、民間団体とも協力してより豊かなプログラムを計画・実践する。